

世界が広がる!

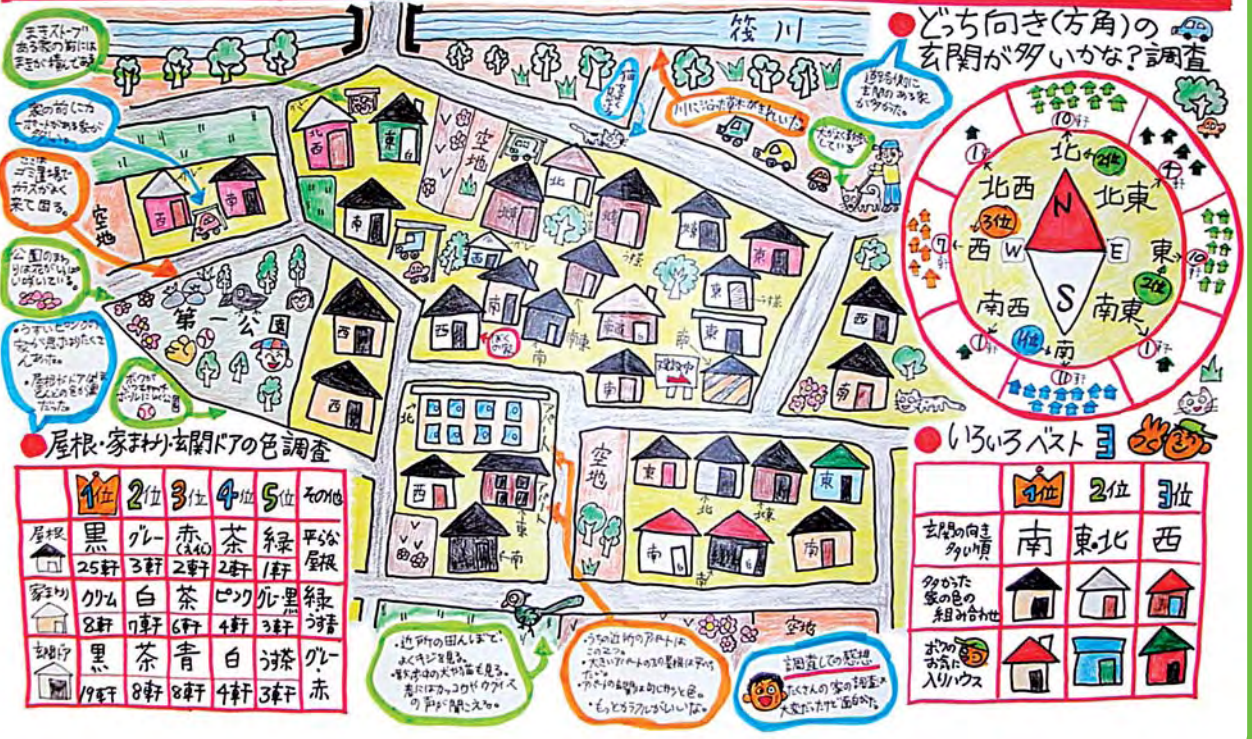
こどもと地図

2008年

9月号
(2学期)

ご近所さんのお家調査

富山大学人間発達科学部
附属小学校
3年1組 八木仁志



「ご近所さんのお家調査」

富山大学人間発達科学部附属小学校 松浦 悟

はじめに：対象地域は児童の自宅周辺である。この地域は水田地帯を宅地造成してつくられた比較的新しい団地である。本作品は、自宅周辺の家を色や玄関の向きなどの観点で調べた結果を地図に表したものである。

作品について：八木くんは、自宅周辺の家を一軒一軒自分の目で調査し、地図や表にまとめていった。本作品の素晴らしい点は、3点である。

1つ目は、素朴な疑問を大切にし、ユニークな視点で調査活動を行っている点である。何気なく見ている「家の色や玄関の向きにきまりはあるのかな」という疑問からスタートしている。とくに、方位の規則性への着眼が優れている。

2つ目は、調べたことを地図と表の両方でまとめている点である。近所の家の特徴であれば、調査したことを表にまとめるだけでもわかるが、地図を中心にする事で町が見えてきた。

3つ目は、表し方である。明るい色づかいはもちろん、表題や表を統一し、吹き出しでコメントを加え、楽しいイラストを入れることで、見る人を惹きつけ、わかりやすくなっている。

終わりに：「ボクがいつもキャッチボールに行く公園」「川に沿った草木がきれい」といったコメントからもわかるように、この地図は八木くんの「僕の大好きな町をみんなに紹介したい」という気持ちが溢れている力作である。

作成者の話：富山大学人間発達科学部
附属小学校3年 八木仁志

ぼくは、春祭りのししまいや秋祭りのみこしで近所を回ったときに、緑色やピンク色の家があること、家の玄関の向きがいろいろあることに気がつきました。

そこで、夏休み中に方位じ石、メモちょう、ボールペンを持って「どっち向きの玄関が多いの?」「屋根・家のまわり・玄関ドアの色は?」について1けんずつ調査しました。

調査もデータの集計も思ったより時間がかかって大変でした。だけど、わかりやすく工夫して地図や表やグラフに書いてまとめるのはとても楽しかったし、みんなが地図を見て楽しんでくれてうれしかったです。